

ジュニア賞

ゴミの重さは命の重さ

田原 想人 (高校2年生：京都府)

皆さんは今日食事しましたか。世界では飢えに苦しむ人々が8億2100万人います。しかし、飢餓人口は年々増加を続けています。SDGsの2つ目の目標には「飢餓をゼロに」というものまであります。私は飢餓人口を減らしたいと考え方法を調べたところ支援を行う団体、組織に寄付、ボランティア参加などでした。でも寄付となれば自分の生活も維持しつつ寄付しなければなりません。また、ボランティアとなれば時間が必要です。このように飢餓の人々を救いたくても救えないのが現状です。そこで年齢、性別など関係なく誰でも飢餓の人々を救えるゲームを考えました。それが、ゴミの重さは命の重さです。飢餓に苦しんでいない国が抱えている問題は食品廃棄です。このゲームは食に恵まれすぎた国とそうでない国を繋ぐゲームとなっています。

やり方は、ゴミ袋にクリップ式の計りをつけます。ゴミを入れると重さの数字が表示され、1週間で毎週月曜日を基準にしどれだけ重さを減らせるかとなっており、家族との協力が必要です。減量できた分はポイントとなり、その50%が飢餓に苦しむ人にあとは、自分たちが使用出来るようになっています。その計量器にはバーコードが付いており、レジやスマホで読みとるとポイントとなる仕組みです。

飢餓に苦しむ人々は、付与されたポイントが食料に変換されます。全く逆の問題を抱える国同士が助け合える仕組みです。